

# 情報処理学会における 高度 IT 人材資格制度の検討状況

2011年2月3日

情報処理学会 ITプロフェッショナル委員長  
旭 寛治

# 情報処理技術者資格検討の背景

- わが国の情報処理技術者の社会的地位が低い  
現状は満足できるものではない
- ミッションクリティカルな情報システムで事故が多発  
開発を担当する 技術者の質が問われている
- 情報処理技術者のプロフェッションが確立していない  
情報処理技術が魅力ある分野として認識されていない
- 医師や弁護士のような資格の検討が必要  
理系離れの中でも、資格の取れる学科には学生が  
集まる

# 高度IT人材資格の目的

---

- 情報処理技術者のプロフェッションの確立による社会的地位の向上
- 情報処理技術者の質の向上

# 高度IT人材資格制度（案）

## ■ 基本方針

- (1) 共通キャリア・スキルフレームワークおよびITスキル標準に準拠した認証制度とする
- (2) 国際的に通用する資格とする

# 共通キャリア・スキルフレームワーク

- 2008年10月 経済産業省、IPAが第一版公開
- 高度IT人材の育成・評価のための枠組み
- 人材像と保有すべき能力や果たすべき役割(貢献)の観点から整理
- 各スキル標準共通の参照モデル
  - ITスキル標準(ITSS)
  - 組込みスキル標準(ETSS)
  - 情報システムユーザースキル標準(UISS)
- 情報処理技術者試験との対応関係の明確化

# 共通キャリア・スキルフレームワークのレベル定義

- レベル7: 高度な知識・スキルを有する世界に通用するハイエンドプレーヤ
- レベル6: 高度な知識・スキルを有する国内のハイエンドプレーヤ
- レベル5: 高度な知識・スキルを有する企業内のハイエンドプレーヤ
- レベル4: 高度な知識・スキルを有し、プロフェッショナルとして業務遂行、後進育成
- レベル3: 応用的知識・スキルを有し、要求された作業についてすべて独力で遂行
- レベル2: 基本的知識・スキルを有し、一定程度の難易度又は要求された作業について、その一部を独力で遂行
- レベル1: 情報技術に携わる者に必要な最低限の基礎的知識を有し、要求された作業について、指導を受けて遂行

# レベルの判定方法

## ■ レベル1～3

各レベルに応じた情報処理技術者試験合格をエントリ基準と見なす

エントリ基準: 当該レベルの領域に達したという基準

## ■ レベル4

情報処理技術者試験の結果のほか、経験と実績の確認が必要（業務履歴の確認と面接等を併用するなど）

## ■ レベル5以上

経験と実績等を確認するとともに、上位レベル又は同レベルのピアレビュー等を通じて判断

# 対応する情報処理技術者試験

- レベル1: IT パスポート試験
- レベル2: 基本情報技術者試験
- レベル3: 応用情報技術者試験
- レベル4: 高度試験

ITストラテジスト試験、システムアーキテクト試験、プロジェクトマネージャ試験、ネットワークスペシャリスト試験、データベーススペシャリスト試験、エンベデッドシステムスペシャリスト試験、情報セキュリティスペシャリスト試験、IT サービスマネージャ試験、システム監査技術者試験

レベル4 の判定には、当該高度試験の結果の他、業務経歴の確認と実績の評価が必要

- レベル5以上: 対応する試験はない



# 高度IT人材資格制度（案）

## ■ 基本方針

(1) 共通キャリア・スキルフレームワークおよびITスキル標準に準拠した認証制度とする

→ レベル4の判定に必要な、業務経歴の確認と実績の評価を実施する

(2) 国際的に通用する資格とする

# IFIPの動き

- IFIP: International Federation for Information Processing
  - 情報処理国際連合
  - 1960年、国連ユネスコの提案で組織された
  - 現在、約50ヶ国の情報処理関連団体が加盟
  - 日本の代表団体は情報処理学会 (IP SJ)
- IP3: International Professional Practice Partnership
  - IFIPが設置した、高度IT人材資格制度の推進組織
  - メンバー: 英BCS、加CIPS、豪ACS、IEEE/CS、IFIP、  
日本IP SJ、南アCSSA、ニュージーランドNZCS、  
ジンバブエCSZ (韓国、ブルガリアも近々)
  - IP SJは2009年6月に加入

# IP3の資格制度

- 各国の資格制度に一定の要件を課すことにより、国際同等性を確保
- IFIPが各国のメンバー学会を資格認証機関として認定
- 認定された機関が個々の技術者の資格を認証
- 豪ACSと加CIPSがIP3の認定を取得済み

## 【用語】

認定 (accreditation)



機関が対象

認証 (certification)



個人が対象

# IP3の資格制度

- 資格の水準： SFIAのレベル5  
(ITSSのレベル4に相当)

SFIA : Skills Framework for the Information Age  
英のスキル標準

- 認証は一定期間ごとの更新制(再認証)が条件  
➡ CPD(継続研鑽)の仕組みが必要
- ISO/IEC 17024(適合性評価-要員の認証を実施する機関  
に対する一般的要求事項)や  
ISO/IEC 24773(ソフトウェア技術者認証)と整合性あり
- URL <http://www.ipthree.org/>

# IP3の組織

- Board
  - ChairはCIPSのGreg Lane
  - 情報処理学会もBoard Memberの一員(芝田晃氏)
- Professional Standards Committee
  - 認証・認定の標準、CBOOK(知識体系)を策定
- Professional Standards Council
  - 産業界との連携、Committeeのサポート
- Global Industry Council
  - 企業からの支援組織
  - Google, Cisco, Microsoft, Accenture, Avanadeなど
- ブログ The IT Professionalism Debate – Sharing Ideas
  - 情報処理学会からもcontributorとして参加(掛下哲郎氏)

# 高度IT人材資格制度（案）

## ■ 基本方針

(1) 共通キャリア・スキルフレームワークおよびITスキル標準に準拠した認証制度とする

➡ レベル4の判定に必要な、業務経歴の確認と実績の評価を実施する

(2) 国際的に通用する資格とする

➡ 情報処理学会が資格認証機関としてIP3の認定を取得できるように制度設計する

# 制度設計の方針（案）

## ■ 対象職種

- 当面、テクニカルスペシャリストを対象  
ITスペシャリスト、アプリケーションスペシャリスト、  
ソフトウェア開発

## ■ 対象のレベル

- ITSSレベル4（IP3の基準であるSFIAレベル5に相当）から  
開始

## ■ 企業との関係

- 各企業でのIT人材育成を支援するものを目指す  
（業績への貢献度など、企業特有の評価は対象外）

# 制度設計の方針（案）

## ■ 資格申請

- 情報処理技術者試験（高度試験）の合格が条件  
➡ これにより知識の充足性を確保

- 資格申請条件の多様化

同等の知識を得ることを示すものがあれば、検討  
（ベンダー資格、特定の研修受講、業務経歴年数等）



# 制度設計の方針（案）

## ■ 資格審査

- 業務経歴書、上司等の推薦書（証明書）等の書類審査  
➡ これにより**業務経験の実績**を評価。
- 審査の方法
  - 業務経歴書等に記述された業務経験をITSSの達成度指標で評価
  - 審査書類の信憑性を確保するためにサンプルについて聞き取り調査を実施
  - 学会員であることを条件とする方向で検討（海外ではそれが普通）
  - 審査は、情報処理学会、又は学会から委託された組織にて実施

# 制度設計の方針（案）

## ■ 資格更新

- 資格の有効期間は3年程度
- CPD制度を設け、所定のCPDポイントを取得した者に対して資格を更新（再認証）
- CPDには、情報処理学会での活動を含める  
デジタルプラクティスへの投稿、ソフトウェアジャパンへの参加／発表、ITフォーラムでの活動、高度IT人材資格の審査を担当、など

## ■ その他

- 倫理綱領と行動規範（制定、監視）
- クレーム制度、懲戒審査

# 資格制度のメリット/デメリット

## ■ メリット/ニーズ

- 情報処理技術者の質の向上
- 情報処理技術者の社会的地位の向上
- ベンダーを選定する際の参考
- 社内・グループ内の人材育成制度での活用
- 情報システムの品質の確保

## ■ デメリット/問題点

- 規制緩和の流れに逆行
- 社内・グループ内の人材育成制度との不整合

# 検討課題

- 資格制度の位置付け
  - 公的資格か、民間資格か
- インセンティブ
  - 企業の社内人材育成制度での活用促進
  - 個人の資格取得意欲の向上
- 制度の運営
  - 体制(学会、独立の法人)
  - コスト(誰が負担するのか)

# 情報処理学会における 高度 IT 人材資格制度の検討状況

ご清聴ありがとうございました